

『別子銅山ゆかりの句碑・歌碑をたずねて』

横井邦明

四国にスポット・ライトがあたっているようです。

国営放送で四国が舞台の3つのドラマが始まり、香川県ではこの夏「瀬戸内国際芸術祭」が始まります。

新居浜も、「東洋のマチュピチュ」として東平地区に遺っている貯鉱庫跡に、大阪などからたくさんの人達が訪れて来ています。

これは、それらに与しないミニミニ・ツアーのお勧めです。

意外に知られていませんが、新居浜市には、正岡子規の心友であり俳誌「ホトトギス」の主宰者でもあった柳原極堂や高浜虚子に師事した酒井黙禅らの優れた俳人・歌人から直接指導を受けた方たちが多くおり、また川田順や山口誓子といった住友ゆかりの俳人・歌人もいるため、ゆかりの人たちの手により多くの歌碑・句碑が建立されています。

尤も、古くは寛政7年(1795)、小林一茶がこの地へ立ち寄り、歌を遺しているといった歴史もあります。別子銅山ゆかりの歌碑・句碑について、いくつかご紹介します。

「どよもすは 大鉷のうた 鉷山の春」 本田三嶺子

場所 角野新田町3 大山積神社正面石段 南

別子銅山の新年は、正月の大山積神社への「大鉷奉納」が始まります。毎年、坑内の安全と良い鉷石が採れ、事業が繁栄することを祈願して行われました。



本田三嶺子句碑

「大鉷」は、最も良い鉷石にしめ飾りをして神輿に見立てたものです、重さは300kgにもなり約40人で担ぎます。昭和48年の最後の大鉷は、別子銅山記念館の入口に飾られています。句にある「どよもす」は、

「響もす」と書きます。別子銅山が閉山した現在も、歌い継がれた「大鉷のうた」が住友グループの人達により、正月に奉納されています。平成21年11月22日、別子銅山親友会の人達から教えを受けた角野中学校の有志の中学生によって、立派な「大鉷のうた」が銅山ゆかりの鉷友寮において響めきました。深い感動を覚えました。これからも、受け継いでいって貰いたいものです。

本田三嶺子は、新居浜の代表的な俳人で柳原極堂らに師事をされた方です。この句碑は、別子銅山三百年記念に有志の方たちによって建てられました。

「土佐越の 遠登志の橋や 山桜」 酒井黙禅

場所 立川町 鹿森ダム 新仙雲橋前左

「遠登志」は、「おとし」と読みます。かつては、「落シ」と書きました。大正5年から昭和5年まで、別子銅山の中心である採鉱本部があった「東平」(とうなる)から新居浜の町中へ出るための重要な地点でした。

明治35年(1902)採鉱を運搬するための第三通洞が貫通すると、東平口から坑水も排出されることになり、新居浜沖までの約16kmに及ぶ坑水路が設けられ、その一部として遠登志橋にも坑水路が併設されました。



遠登志橋(登録有形文化財)

遠登志橋は、明治38年に完成。長さは48m。平成5年の

橋の架け替えに際して、もとのアーチ部分を残して負荷がかからないように新たなつり橋を架けました。わが国最古級の鋼アーチ橋として平成17年、国の登録有形文化財になりました。句を詠んだ酒井黙禅は、松山赤十字病院の院長を長年にわたり務め、高浜虚子に師事したホトトギス同人です。新居浜市にも、幾度となく指導に訪れています。

「地中にて 働くことは慣れながら 皆大山祇に 礼して這入る」 川田順

場所 角野新田町3 別子銅山記念館西

この歌にふれるたびに、昭和48年3月31日の別子銅山閉坑の日における筏津坑の坑口で深々と一礼をする古いフィルムを思い出します。万感の思いを込めた一礼であったでしょう。



端出場の第四通洞

坑口には、坑内での安全を祈願して大山祇の神が祀られていました。(端出場の第四通洞の坑口には、今も祀られています。)

川田順は、歌人としても作家としても世に知られた人物ですが、昭和11年に職を退くまで住友合資会社の理事として活躍しました。昭和30年5月24日、新居浜に帰ってきていた旧友鷺尾勘解治(元住友合資会社 常務取締役)と旧交をあたため直したあと、東平の現場に行ったときに詠んだと言われています。

歌碑の裏には「昭和34年4月1日建之」とあり、端出場の採鉱事務所正門に設置されていました。

「移(植)忌し 落葉松ここに 黄葉して かく美はしき 樹林と成りぬ」 住友吉左衛門友成

場所 別子山中七番 住友の森フォレストハウス

明治27年7月別子銅山支配人として赴任した伊庭貞剛は、荒れ果てた別子の山を見て「別子全山を旧のあをあをとした姿にして、これを大自然にかへさねばならない」と決意します。毎年100万本、多いときには250万本にも及ぶ植林事業は、伊庭のあとを継いだ鈴木馬左也らにも受け継がれ、別子の山には大自然が甦ります。

別子銅山が閉山する前年の昭和47年10月、現地を訪れた住友家第16代家長 友成は、先人の偉業に思いをはせ、この歌を詠みます。

家長友成は、「泉幸吉」というペンネームでも知られ、齋藤茂吉に師事したアララギ派の歌人でもあります。新居浜市の別子銅山記念図書館には、泉幸吉が所持していた書籍類が贈与され、「泉幸吉文庫」として利用されています。



住友吉左衛門友成歌碑

このほかにも、別子山の筏津山荘にも川田順の歌碑や本田三嶺子の句碑が、また、別子銅山記念館入口には、住友吉左衛門友成の別の歌碑が建立されています。

銅山峰の雪がとけ、桜の花が満開になる頃、新居浜市内に点在する歌碑・句碑を巡られるのも一興かと思えます。